運動部員に対する態度の研究

神　代　古　典

Studies of the Attitude to Sports-club Students.

Hisanori KAJIRO

私たちは過去2回，運動部員に対する一般学生の態度を調査した結果を報告してきましたが，今回は，一般学生だけでなく，運動部員自身の態度を調査して，その結果を比較，分析した結果を報告したいと思います．

Ⅰ　研究の目的

強い運動部をもつ大学では，運動部員に対する一般学生の態度は，かなり非好意的である．

それは，運動部員の行為様式，学業への取組み方，大学当局の優遇措置など，社会的存在としての運動部員に対する一般学生の批判的態度に根ざしている．

態度を，より分析的に測定するために，性格検査作成法を準用して，5個の下位尺度（公正，活動性，宣伝，粗暴，勉学）から成る態度尺度を作成した．これを用いて態度調査を行い，運動部員に対する一般学生の批判的態度を実証した．

2回の研究では，運動部員に対する一般学生の態度を測定したのであるが，今回は，それと共に，運動部員自身の態度をも測定して比較分析することを目的とする．

表1　調査対象の内訳（2年生）

大学			一般学生 男	一般学生 女	運動部員 男	運動部員 女
強い運動部をもつ大学	私立	A	43※		71※	
		B	79※		42	
		C	150※		105	
		D	78△		61	
		E	80△		16△	
強い運動部をもたない大学	私立	F	97※		54	
		G	68△		88	
		H	70△		62	
		I	40△		25	
	国公立	J	103※		93	
		K	50△		70	
		L	96△		53△	
	女子大	M	65※		7	
		N	106※		21	
		O	112※		29	

※　昭和45年4月～5月に調査
△　昭和45年8月～9月に調査
無印は昭和46年4月～5月調査

Ⅱ　研究の方法

性格検査作成法を準用して作成した5個の下位尺度（公正，活動性，宣伝，粗暴，勉学）から成る態度尺度を用いて，運動部員自身と一般学生の運動部員に対する態度を測定した．

対象は表1のとおり．ただしこの中には，過去2回調査した結果を再集計したものも含まれる．

調査対象はプリントの表1のとおりですが，このうち※印と△印をつけてあるのは，今までの2回の研究の調査対象で，その回答を集計しなおしたものです．

用いた態度尺度は表2のとおりです．これは因子分析法によって作成したもので，この作成のプロセスは，すでに昨年報告いたしました．これは，公正，活動性，宣伝，祖暴，勉学という5つの下位尺度から成っており，それぞれ3個乃至8個のアイテムが対応しています．

なお，ここで調べようとしているのは，大学の枠をこえた運動部員一般に対する態度ではなく，自分の大学の運動部員に対する態度です．ですから，調査に際しては，自分の大学の運動部員の一般的な傾向を頭において答えるように指示しています．

Ⅲ　調査の結果

この調査の結果から態度スコアを計算しました．つまり，尺度の各アイテムに対しては「賛成」「どちらともいえない」「反対」のどれかで答えてもらうわけですが，このうち好意的反応を＋1点，どちらともいえないを0点，非好意的反応を－1点として計算しますと，た

表2　態　度　尺　度

・反応は「賛成」「どちらともいえない」「反対」の3反応形式

・各意見の前には，すべて「運動部は」ということばがつく

尺度	意　見（アイテム，項目）
公正	1.　自己中心的である．
	2.　アマチュア精神に欠けている．
	3.　自分で行動することが少ない．
活動性	4.　たくましい．
	5.　行動的である．
	6.　動作がきびきびしている．
	7.　忍耐力がある．
	8.　団結力がある．
宣伝	9.　学校の宣伝に使われている．
	10.　大学当局から不当に優遇されている．
	11　運動部員であるという特権を用いすぎる
粗暴	12.　横暴である．
	13.　威圧力がありすぎる．
	14.　暴力的行動に走りやすい．
	15.　話し合いでなく力によって解決しようとする．
	16.　長いものには巻かれろという考えの者が多い．
	17.　服装が乱れている．
	18.　教師は甘やかしている．
勉学	19.　授業の出席率が悪い．
	20.　学業をないがしろにする傾向がある．
	21.　運動を本業にしている．
	22.　学力が落ちる．
	23.　運動だけやっていればよいと考えている
	24.　学校に来る目的がはっきりしない．
	25.　授業態度が悪い．
	26.　頭が悪い．

とえば，公正尺度はアイテムの数が3個ですから，得点の巾は＋3点から－3点までということになります．同じようにして，活動性尺度では，アイテムの数が5つですから，得点の巾は＋5点から－5点までということになります．

尺度によって，このように得点の巾が異るのは，比較するのに不便ですので，得点の巾がみんな同じになるように，得点をそれぞれの尺度のアイテムの数で割ることにしました．こうしますと，どの尺度の得点の巾も，みな，＋1点から－1点までとなります．このようにして修正した得点を，ここでは態度スコアと呼ぶことにします．

この態度スコアの平均値を，大学別に，運動部員と一般学生とに分けて計算した結果が図1から図5までの棒グラフです．

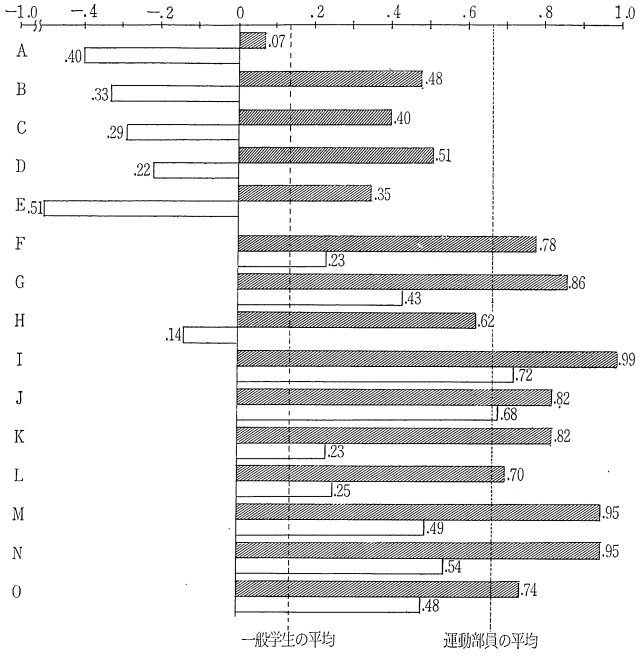

図1　宣伝尺度のスコア

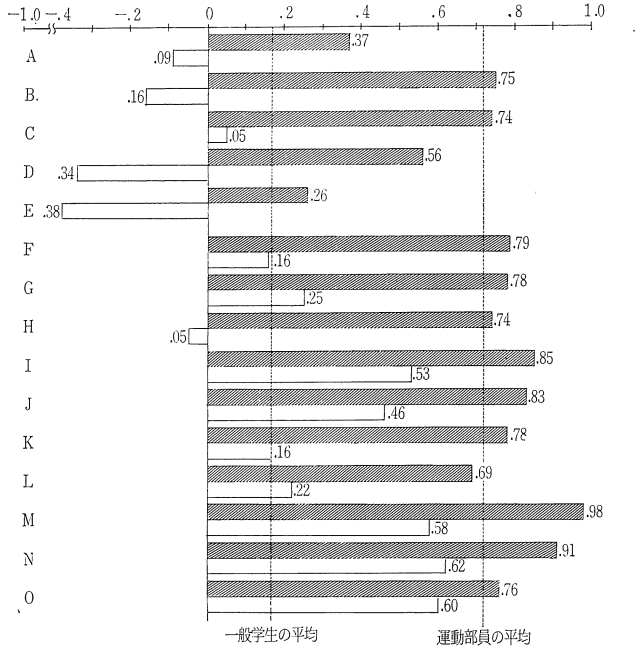

図2　粗暴尺度のスコア

運動部員　　一般学生

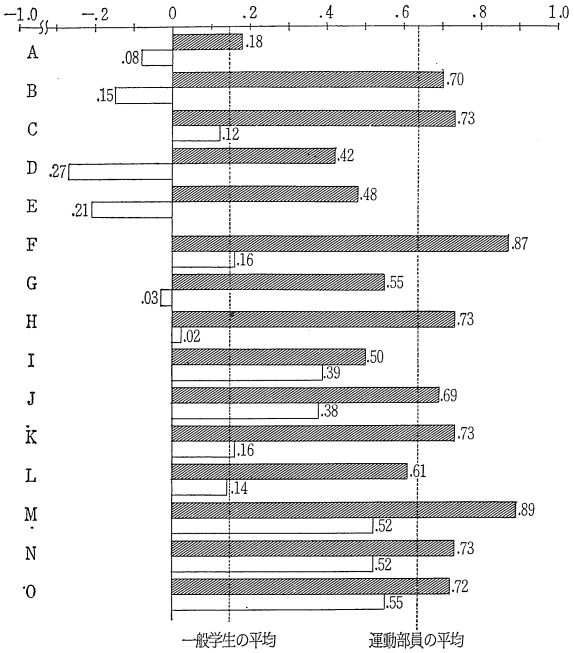

図3　勉学尺度のスコア

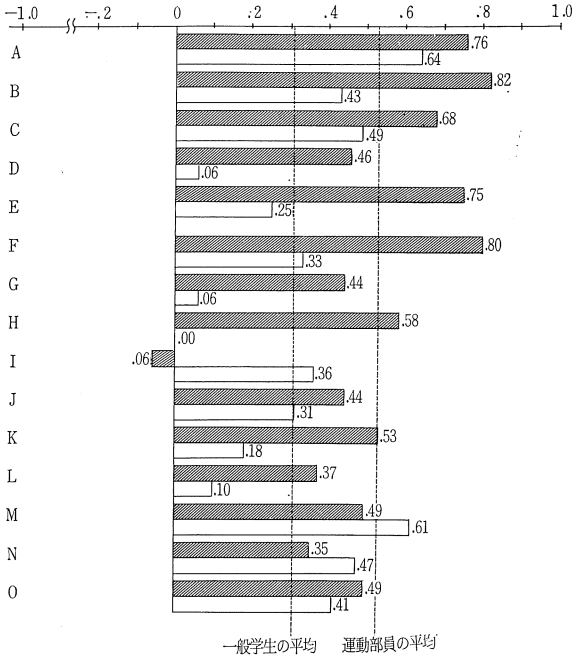

図5　活動性尺度のスコア

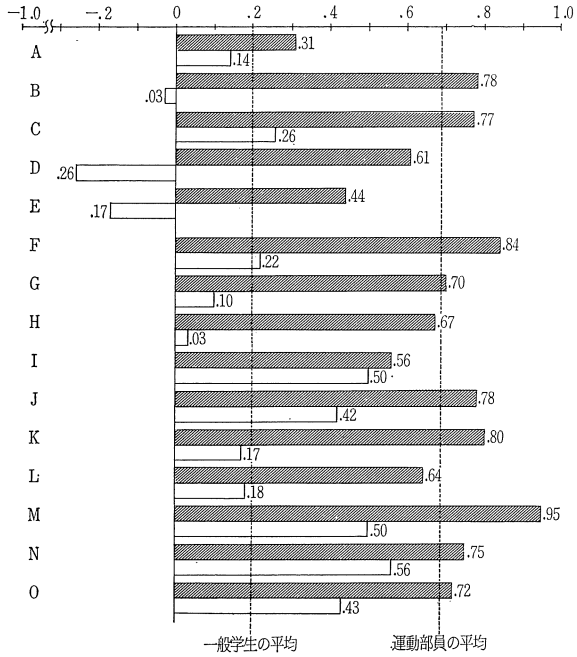

図4　公正尺度のスコア

運動部員　一般学生

まず，図1は，宣伝尺度のスコアの平均値の分布です．H大学だけがちよっとおもむきがちがいますが，この例外を除けばAからEまでの強い運動部をもつ大学と，F以下の強い運動部をもたない大学とは，まったく対照点です．AからEまでの強い運動部をもつ大学では，運動部員自身は，運動部員が大学の宣伝に利用されていることを否定する方向に寄っているのに対して，一般学生は，運動部員が大学の宣伝に利用されていると感じているわけです．

しかし，AからOまで通してながめてみますと，強い運動部をもつ大学の運動部員は，強い運動部をもたない大学の運動部員にくらべて，運動部員が大学の宣伝に利用されていることを否定する度合が弱いということがわかります，特に一番上のA大学では，その傾向が顕著です．

次の図2は，粗暴尺度のスコアです．ここでは，H大学という例外に加えて，新たにC大学も例外として加わりますが，全体的な傾向としては，やはり図1と同じように，強い運動部をもつ大学とそうでない大学とは対照的です．一般学生は，運動部員はどちらかといえば，粗暴だと思っているのに，運動部員自身はそれほど粗暴づとは思っていないというわけです．そのような食い違いが特に目立つのはB大学です．

次の図3は，勉学尺度のスコアですが，これもやはり，図2の粗暴尺度のスコアと同じような傾向です．若干の例外はありますが，強い運動部をもつ大学では，運動部員自身はかなりよく勉強もしていると思つているのに対して，一般学生の態度はどちらかといえば，冷ややかです．一方，強い運動部をもたない大学では，運動部員自身が思っているほどではないにしても，一般学生も，運動部員がかなりよく勉強もしているということを認めています．

次の図4は，公正尺度，つまりフエアな行動に関する態度を測る尺度のスコアです．

強い運動部をもつ大学とそうでない大学との差は，今までの3つの図よりも小なり縮まっていますが，それでもやはり，B．D．E などの大学の一般学生の態度は非好意的です．

最後の図5だけは，今までの図とはまったくおもむきがちがいます．これは運動部員の活動性に対する態度を測る尺度のスコアですが，特にA大学，B大学，C大学などは，運動部員自身の態度も，一般学生の態度も，共に平均をこえて好意的です．

この図1から図5までの5つの図をながめてみますと，「強い運動部をもつ私立大学」のごく常識的なイメージをもっとも典型的に表わしているのはA大学であるということがわかります．しかし，運動部員自身の態度と一般学生の態度との食い違いという角度からみますと，いいかえれば，運動部員と一般学生の意識の断絶の大きさという角度からみますと，A大学にはそれほど大きな問題はなく，むしろ，D大学やE大学の方に大きな問題が存在していることがわかりますし，また強い運動部をもたない大学の中でも，H大学やG大学などは，なにかの問題をかかえている大学です．

その問題が何であるかということは，この調査の結果だけではわかりませんが，この調査の結果からケース・スタデイ的に調査を進めていきますと，その問題を深り当てることができます．たとえば，運動部員と一般学生の態度のズレが一番大きいE大学は，運動部と自治会との対立がしばしば新聞種になっていた大学です．そういう意味では，この調査は問題発見のための予備調査という目的には使うことができると思います．

運動部が一般学生とは無関係な所で，一般学生の非好意的な態度を無視して，ただひたすらに試合と練習に没頭することができるような時代は，次第に終りに近づいているような気がします．そのような時にあたって，長い伝統と，複雑な人間関係によって，容易に外部からの干渉を許そうとしない大学の運動部が，社会の要請にどう対処しようとするのか．私たちは，今後，態度調査を柱にしながら，なおその他に必要ないろいろな手法をつけくわえながら，社会的存在としての，運動部の動向を明らかにしていきたいと考えております．

〈付　記〉

態度調査の実施に際しては，調査校の体育担当の先生方の好意ある御協力を得た．本来なら，ここにお名前を記して謝意を表わすべきですが，調査の性質上，本稿での調査校名の公表を避けたので，ここに協力者の氏名を記すことも省略させていただいた．

引　用　文　献

小林篤（1960）：運動部員と一般学生の社会的態度の差異に関する研究
九州大学体育学研究　2—4，7—14

神代古典・小林篤・池田隆二（1970）：
運動部員に対する一般学生の態度
体育学研究　14—5，P—61

続有恒・織田揮準・鈴木真雄（1970）
質問型式による性格診断の方法論的吟味
教育心理学研究　第18巻第1号